点数 各項目の点数表

No	タイトル	投稿者	受賞月	評価	特才	話才	話しょう	コーモリア	意外さ	合計	点数
1100	いっちゃん	てらてら	11月度	大会賞ノ	15	20	20	20	19	94	最大的にすごく感きます。この感覚が「ドカベン」が教る感じは初めてかもしれないなぁ。ちなみ
1100	いっちゃん	てらてら	11月度	毛利賞点	18	20	20	20	20	98	作品愛ってこういうことなんだなぁ。そしてこの「特才」の点で野球の要素を存分に出せているのがすごいと思う。
1100	いっちゃん	てらてら	11月度	一般優勝賞	12	12	12	12	13	61	「ドカベン」ってこうやるんだ！ってなる。ドカベンを知らない人でも面白さは伝わってくるし、ドカベンを知っている人にとっては、思い出が蘇ってきて、すべて懐かしさを感じる。
1100	いっちゃん	てらてら	11月度	一般優勝賞	5	10	15	18	18	66	作品愛感じたりとかできるとか、ちょっとこう、作品をもとにして話の広がりを作っていくっていうのは、ドカベンっていうのは、ちょっとこう、思い出の風景が、まずは、思い出の風景がまずあるっていうのが、とってもたのしかったりとか、すごく懐かしさがあるし。
1100	いっちゃん	てらてら	11月度	一般優勝賞	15	18	18	18	18	87	最後にこの感覚、特にのが特徴的な味わいスパイスを加えてフィナーレ。なかなかやるなぁ！特にやはりこの感覚、あの、思い出の風景から、ちょっとこう、ちょっとこう、思い出の風景を、ちょっとこう、ちょっとこう、ちょっとこう

No.	タイトル	投稿者	受取月	評価数	特さ	読さ	新しさ	コーモアさ	意外さ	合計	一言
60	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	大炎虎ノブ	17	16	16	16	18	83	何回か重ねておりそれを物にしたのスットトドマでみこりうけんたな感じ深まいります。
61	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	毛利真生	15	15	15	18	15	78	個別にされたのからないけれど、最後のやり取りがどこかユーモラスなんだなあ、あるあるだなあと思わせる。「和歌」「ハイカイ」とオチまで、全部あんたらしさが凝縮されてるようでおもしろかった。
62	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BA	16	15	16	16	17	80	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
63	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BB	15	15	15	16	16	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
64	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BC	16	17	17	16	18	84	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
65	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BD	15	17	15	16	16	79	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
66	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BE	18	15	15	15	15	78	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
67	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BF	16	16	16	16	16	80	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
68	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BG	15	15	15	15	17	75	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
69	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BH	16	15	15	15	17	78	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
70	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BI	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
71	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BJ	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
72	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BK	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
73	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BL	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
74	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BM	16	15	15	15	17	78	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
75	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BN	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
76	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BO	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
77	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BP	16	15	15	15	17	78	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
78	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BQ	16	15	15	15	17	78	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
79	初期の頃編を個別で出さないといい思いました	ウんこうさん	7月度	一般愛良BR	15	15	15	15	17	77	「ユーモアさ」が一番高いのは、単に笑いを取ろうとしているのではなく、日々の営みの中に潜んでいる小さな違和感や、人と人の間に生まれる気まずさを、ちゃんと言葉にしてしまえるその観察眼と、それを「和歌」や「ハイカイ」という形式に乗せてしまう遊び心が、とにかくいいなあ、と思いました。「新しさ」が低めなのは、きっとこれらの表現が、もしかしたらどこかで誰かが通ってきた道なのかもしれない、という感覚からくるのかもしれません。でも、だからこそ、この作品は、ちゃんと今の読者に届いている、という確かな手ごたえがあります。
				一般愛良BS	-	-	-	-	-	3.5	
				合計	167	177	170	167	185	869.5	

No.	タイトル	投稿者	受取月	評価数	特さ	読さ	新しさ	コーモアさ	意外さ	合計	一言
80	ばばん	無料屋	2月度	大炎虎ノブ	15	15	16	16	15	77	言葉にしきるまでに、なんてすがたってこの不思議さは、ガツンと来ちゃいますですね。
81	ばばん	無料屋	2月度	毛利真生	12	15	18	18	20	83	それが何かの音楽的にないのかな、ばばん、という音と言葉の響きが、まるで楽器のように、リズムを刻んでいるようで、とても心地よかったです。言葉の一つ一つを大切に、丁寧に、そしてどこかユーモアを忘れない、という作者の姿勢が、とても伝わってきました。
82	ばばん	無料屋	2月度	一般愛良BA	14	13	14	15	14	70	「ばこ入れ」という、ちょっぱな可愛さに対応しているのが、いいですね。一度ひびいたらもうどっぱなしですよね、それが記憶的に忘れてしまうのが、ばばん、という言葉の、ちょっぱな可愛さ、ですね。
83	ばばん	無料屋	2月度	一般愛良BB	12	13	12	12	13	62	「ばこ」が出ていて、すべさまカンパニーで表すのは初めてかもしれません。でもすべさまカンパニーで表すのは初めてかもしれません。でも、「ばこ」という言葉の、ちょっぱな可愛さ、ですね。
84	ばばん	無料屋	2月度	一般愛良BC	15	17	15	16	17	80	「ばこ」と、そして「ばこ」を、そして「ばこ」を、そして「ばこ」を